

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：公益財団法人うなんコミュニティ財団

○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：37,222人、将来：30,976人（2030年）、23,264人（2045年）
 （日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
 ○地域の総合計画に示された将来目標
 【人口】現状：37,222人→目標：38,000人（2020年）35,000人（2040年）
 ○地域の環境分野の上位計画の将来目標
 【ごみ一人1日あたりの排出量】705g（2016年）→：646g（2019年）
 【リサイクル率】53.6%（2016年）→56.0%（2019年）

②具体的な取組

- うなんローカリストプログラムの実施／市民対象
 雲南の大切にしたいこと、今後引き継いでいきたいこと等を10の言葉にまとめた「ローカルマニフェスト」を軸に、昨年度実施のみらいコンテスト申請者のプロジェクトの支援を行う。
- ごみ削減の取り組み／市民対象
 (1) コンポスト
 環境教育と併せて、生ごみコンポスト設置及びコンポスト制作ワークショップを地域自主組織や専門家と連携し実施する。
 (2) エコショップマップ
 LINEオープンチャットを活用し市内の資源回収実施スーパーや量り売り店等の情報を収集
- 森林基金の設置
 市内80%の面積を占めており、適切な管理や活用方法の模索が森林組合や事業者を中心に行政とも川上から川下までを区切ってプロジェクトチームを作り検討している。その中で、個人事業主や市民団体が木材利用だけでなく山に入り活動することに着目したイベントの開催や新たなスポーツの開発などに取り組んでおり、森林の新たな活用のプロジェクトに対する基金を設置する。
- 地域密着型クラウドファンディング事業
 雲南市で実施してみたいプランの実現

①ありたい未来
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ◎多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくりよう

少子高齢化や核家族化、地域との繋がりの希薄化が進み、自治会単位や家族単位で支え合っていたことができなくなってきている。現在、定年後に所属する人も多い地域自主組織が主となり、地域課題を地域で解決する「小規模多機能自治」が行われているが、今後はさらに、学生・働き世代など10～40代の関わりの有無が地域の持続を大きく左右する。学業や仕事、子育てなどで多忙な中、いかに「自分たちのまちを自分たちでつくりよう」と楽しく参加する・行動する人や仲間を増やして行くかが重要である。また、社会的に認知されていない地域課題に関しては、広く認知されるまでの活動を弊財団を通じて資金や人材等の資源を募り、支え合いのコミュニティを作っていく。

→ 個々人でまちづくりに参加できる時間（期間・頻度等）や関心分野は様々である。そのため、参加しやすいと感じるプロジェクトへの参加方法を担い手自ら選択したり、自ら創り出す機会そのものの環境を整えることで環境の保全や資源（自然資源・人・資金・情報等）が循環する地域を目指す。

引き継いでいきたいものとして市民の声から多く上がったものが雲南の自然である。また、手間暇をかける豊かさや無理のないお互い様など雲南に住む人ならではのあたたかさも引き継いでいきたいという声もあった。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値 (2021年6月)	目標値 (2021年度末)	実績値 (2021年度末)	単位
環境	雲南の環境活動を知り行動する人	市民環境会議参加者	0	20	30	人
	雲南の環境活動を知り行動する人	キエロコンポスト実践者／測量舎（個人）	0	10	6	人
	雲南の環境活動を知り行動する人	キエロコンポスト実践者／測量舎（法人・事業者）	0	3	2	団体
	雲南の環境活動を知り行動する人	地域自主組織と連携した環境教育	0	1	1	件
	ごみの削減	生ごみの削減量（10日・8人・2事業者）	0	66,000	68,600	g
	雲南の環境活動を知り行動する人	森林活用基金を活用した実践件数	0	5	5	件
	新たに雲南の森林に関わりを持つ人	森林活用基金での実践者・事業参加者	0	50	72	人
	経済	資金が循環する	基金の設置	1	3	3
資金が循環する		基金の金額	21,000,000	22,000,000	44,000,000	円
資金が循環する		地域密着型クラウドファンディング寄付金額	127,000	1,500,000	850,000	円
資金が循環する		地域密着型クラウドファンディング寄付者数	23	200	100	人
社会	市民の声をまとめたローカルマニフェストを知る	ローカリストプログラム参加者、イベントやサロン参加者	20	150	180	人
	雲南の環境活動を知り行動する人	環境LINEチャット登録者	0	50	62	人
	雲南を良くしようと行動する人	ローカリストプログラム等参加者のうちプロジェクト実行者	0	3	3	人
	雲南を良くしようと行動する人	地域密着型クラウドファンディング実施者	1	5	3	団体

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値 (2021年6月)	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	自然環境の維持	自然環境が守られていると感じる市民の割合	-	76	2030年	80	%
	自然環境の維持	自然環境・保全のために活動をしている	-	71	2030年	75	%
	環境負荷減	ごみ排出量（1日1人あたり）	-	698	2030年	646	g/人日
	環境負荷減	リサイクル率	-	52	2030年	56	%
	環境負荷減	省エネ住宅の補助（今後行政の制度導入予定）	-	0	2030年	-	-
経済	資金が循環する	里山券の使用枚数	-	3,915	2030年	4,000	枚/年
	資金が循環する	地域密着クラウドファンディング寄付金額	127,000	1,500,000	2030年	3,000,000	円
	資金が循環する	基金の金額	1,000,000	1,000,000	2030年	3,000,000	円
社会	市民参画	市民参加型収集運搬システム「林地残材」搬出量	-	970	2030年	1,100	t/年
	市民参画	まちづくりに関心がある市民の割合	-	76	2030年	80	%
	市民参画	過去1年間に地域活動に参加した市民の割合	-	74	2030年	75	%
	市民参画	地域課題を地域主体で解決できていると感じる市民の割合	-	43	2030年	50	%
	市民参画	助け合える地域であると感じる市民の割合	-	73	2030年	75	%
	市民参画	地域密着クラウドファンディング寄付者数	23	250	2030年	200	人
	関係人口	関係市民	-	4,000	2030年	4,500	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・多様な人と自然がともに生きるまち雲南をみんなでつくっていくには、市民参加の壁を低くする、無くしていくことが必要である。そのために、昨年度市民の声をまとめたローカルマニフェストを通じて、日頃の困りごとや地域で挑戦したいことなどを気軽に発言しやすいコミュニティや挑戦する人の応援をし合うコミュニティを作る。その中で実践者は周りの人に支えられたり、困りごとを抱える人を支えるプロジェクトを実践するなど、地域の自治力が高まっていくことが期待できる。コミュニティができることを条件に、弊財団の地域密着型クラウドファンディングを利用できるため、プロジェクトへの資金調達が可能である。それらによりまちづくりに関心のある市民の増加や助け合える地域であると感じる市民が増えることに繋がり、資金での応援も可能なため人や資金等が循環する。

・短期目標にある環境教育と併せて実際に環境への具体的な取り組みをする人や団体を増やすことにより、ごみ排出量の削減やリサイクル率の向上に繋げていく。

・現在、環境の視点より社会や経済に重点を置かれるということが現状である。昨年度と今年度を通じて、市民側から環境問題について声をあげたり、学ぶ機会も増加しており、環境に配慮した食の拠点と居場所づくりを実施しようと動き出している団体もある。今後も行政や関係団体と連携し継続した対話の場づくりや新たな取り組みに向けて進めていく。